

カトリック教会の エキュメニズムについて

手塚 奈々子

第2ヴァティカン公会議(1962-65)以来、カトリック教会ではエキュメニズムが盛んに推進されている。近代の諸教会対立の歴史を振り返れば、この公会議の意義は大きい。カトリック教会はこの第2ヴァティカン公会議での決定に基づき活動しているので、この公会議で教皇パウルス6世のもとに出された「エキュメニズムに関する教令」(南山大学監修『第2バチカン公会議公文書全集』中央出版社、1986年p.111-127)を簡単に振り返る。

その序において「すべてのキリスト者の間の一致再建を促進することは、聖なる第2バチカン公会議のおもな目的の一つである(p.113)」と公言される。エキュメニズムについては、「4『エキュメニカル運動』とは、教会の種々の必要と時宜に応じて、キリスト者の一致を促進するために奨励され組織される活動と企てである。まず第一に、分かれた兄弟の状態に公正と真理に基づいて対応していないため、彼らとの相互関係を困難にしている言葉、判断、行動を根絶するためのあらゆる努力である。次に、異なる諸教会や諸教団に属するキリスト者が宗教的精神のもとに企画した会議において、相応の準備のある有識経験者の間で行われる『対話』である。この対話において、各々が自分の教団の教義をより深く説明し、その特徴を明らかに示すのである。この対話によってすべての人は相互の教団の教義と生活について、より真実な知識とより公正な評価を得る。またそれらの教団は、すべてのキリスト教的良心が共通善のために要求するあらゆる義務においても、もっと広く協力し合うようになり、なおゆるされた範囲内で、心をつつにして祈るために集まる。その上、すべての人は教会に関するキリストの

意志に対する自分の忠実さを反省し、そして当然、刷新と改革の事業に熱心に従事する。(p.116)」このように研究と対話により相互に深く理解し合うようになることが求められている。また互いの相違を認識しながらも、隣人愛の業として特に社会的事柄に関して協力し合い、世界に対して福音を証ししながら教会一致のために対話することが勧められている。

「19 啓示された真理の解釈に関して、著しい相違があることを認めなければならない。(p.125)」「22 主の晩餐、他の諸秘跡、礼拝、教会の職務に関する教義を対話の題材としないなければならない。(p.126)」「23 教会一致のための対話は福音の道徳的適用から始めることができる。(p.126)」

パウルス6世はコンスタンティノポリス総主教アテナゴラスと共に、1054年に互いを分裂に導いた相互の破門宣告を取り消したり、キリスト教徒一致推進事務局を通してエキュメニズムを正しく推進させ、諸教会との協力関係を今後も促進させるためにキリスト者の一致のための秘書局を公会議後に聖座の永続期間として残した。

その後もカトリック教会は諸教会と様々な対話を行っていることは周知の通りである。

エキュメニズムの目的は、様々な教会を合成してキリストの教会を新しく組織的に1つにすることではない。様々な異なった礼拝形式を互いに理解し、尊重しながらも、各教会の独自性を生かし、同じ唯一のキリストを信じるのだから互いに協力し合うという聖霊における多様性の一致が説かれているのである。現在日本での身近な例で言えば、神学研究の他に共に集まり祈祷することが行われている。礼拝合同ミサが行われたりもする。また、毎年1月18日から25日まで「キリスト教一致祈祷週間」が特別に設けられ、すべてのキリスト者が共に心を合わせることができるよう祈っている。同じキリストを信じる者として、キリストの愛と平和に基づき、相互の立場を尊重しながら協力し続けることを願う。

(てづか ななこ 所員・社会学部助教授)